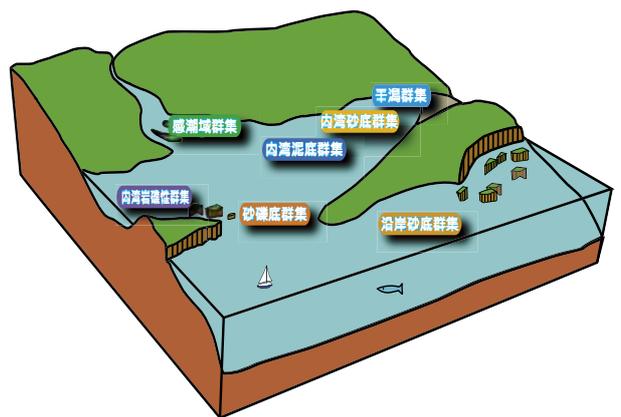
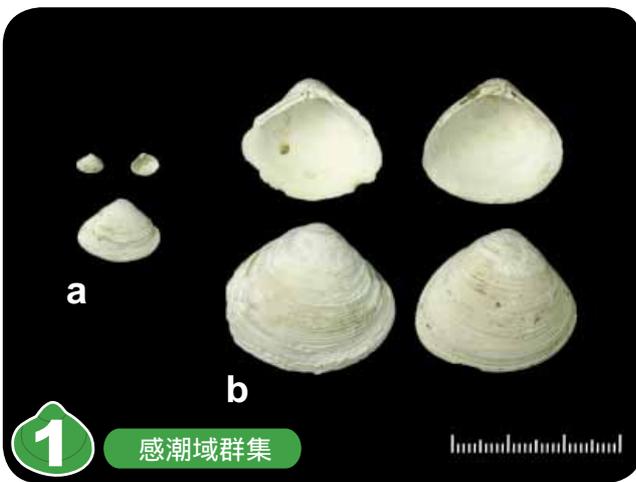
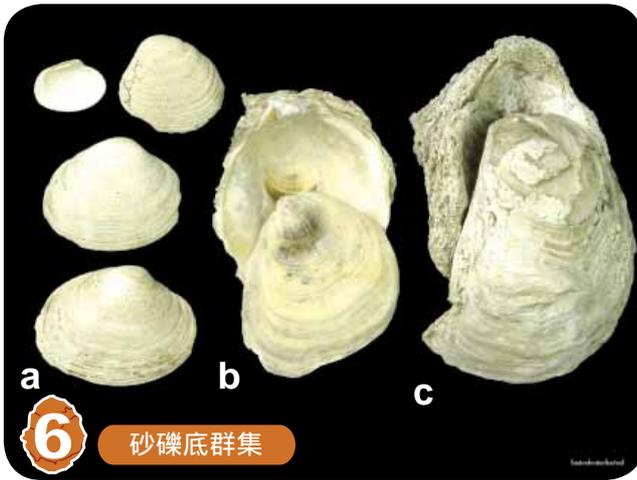


内湾と沿岸にすむ貝



内湾と沿岸における代表的な貝類群集を示しました（裏頁も参照）。展示の実物標本を見て、それぞれの貝の名前を照らし合わせてみて下さい。なお、貝類群集の写真中にあるスケールは3cmです。

内湾や沿岸にすむ貝を整理してみよう



6 砂礫底群集



9 沿岸砂底群集

感潮域群集の貝たち

感潮域群集は河口などで海水と淡水が混ざる汽水域にすむ貝たちです。この群集が栄えたのは、海面が上昇して内湾ができはじめた海進初期から、湾が最も拡大した縄文海進最盛期まででした。その後は衰退して現在に至っています。

干潟群集の貝たち

内湾奥部の塩のむっとも甘い泥質底に分布する貝類群集です。この群集は海面の上昇で内湾ができると最初に出現し、湾奥に広がる干潟にすみつき、縄文海進最盛期には最も発展しました。その後海面が下がるのにつれて、泥干潟が狭まるとともに、この群集も勢いが弱まり現在に至っています。

内湾砂底群集の貝たち

内湾の湾奥から湾中央部に広がる砂底にすむ貝たちが内湾砂底群集です。砂浜のみられる内湾を代表する貝たちで、潮干狩りでなじみのある貝です。縄文海進最盛期以降、三角州や砂浜の拡大によって生息域を広げました。

内湾泥底群集の貝たち

内湾でも水深数m～10m以上の

深さで泥底となる場所にすむ貝たちです。この群集は、縄文海進前期から最盛期にかけて、内湾の湾中央部から湾奥部泥底に広く分布しました。しかし、その後の海面低下による内湾の縮小と砂の堆積により、泥底の残る湾中央部だけに分布しています。

内湾岩礫性群集の貝たち

内湾の波食台が広がる岩礫など礫にすむ貝類群集です。岩に固着したり、あるいは岩に穴をあけて生活する貝たちを含む群集です。

砂礫底群集の貝たち

湾口部など潮の流れの速い砂礫底に生息する貝類群集を砂礫底群集と呼びます。砂礫底群集の貝たちの化石は、潮通しのよい湾口部などの砂礫層から産出します。この群集の生息する環境は分布する範囲が狭く限られています。

沿岸砂底群集の貝たち

湘南海岸など外洋に面した沿岸の砂底にすむ貝たちです。この群集は、約6000年前の縄文海進最盛期より古い時代にはほとんどみられません。この貝類群集の生息できる沿岸の環境が少なく、進出してくるのが遅れたのでしょう。

- 感潮域群集：
a. ヌマコダキガイ
b. ヤマトシジミ

- 干潟群集：
a. イボウミニナ
b. ウネナシトマヤガイ
c. ハイガイ
d. オキシジミ
e. マガキ

- 内湾砂底群集：
a. アサリ
b. イボキサゴ
c. シオフキ
d. ハマグリ
e. サルボウ
f. カガミガイ

- 内湾泥底群集：
a. イヨスダレ
b. ウラカガミ
c. アカガイ
d. トリガイ

- 内湾岩礫性群集：
a. オオヘビガイ
b. キクザルガイ

- 砂礫底群集：
a. ウチムラサキ
b. イタボガキ
c. イワガキ

- 沿岸砂底群集：
a. ダンベイキサゴ
b. サトウガイ
c. ワスレガイ
d. ベンケイガイ
e. コタマガイ
f. チョウセンハマグリ